

〔国際交流委員会活動報告〕

第9回国際家族看護学会議の見聞録および国際交流委員会主催参加ツアーの報告

日本家族看護学会国際交流委員会 委員長¹⁾ 委員²⁾

法橋 尚宏¹⁾ 河原 宣子²⁾ 小林 京子²⁾

第9回国際家族看護学会議（9th International Family Nursing Conference）は、Erla Kolbrun Svavarsdottir博士が議長、アイスランド大学が主催で、アイスランドの首都レイキャヴィークのHilton Reykjavik Nordica ホテルにて、2009年6月2～5日の会期で開催された。アイスランドは、その文化の主流をスカンジナビアに発している、面積は103,000km²、人口は3人/km²と少なく、全人口の3分の2が首都レイキャヴィークに住んでいる国である。第9回国際家族看護学会議には、29の国・地域の家族看護学研究者468名が参加し（表1）、日本からは口演、示説、招聘講演を合わせて38演題の発表があった。以下に、会議見聞録に加えて、国際交流委員会が本会議への日本人参加者のために企画した参加ツアーに関する報告を行う。

表1. 国・地域別参加者数（参加者の多い順）

国	名	参加者数（名）
アイスランド		185
アメリカ合衆国		68
日本		45
カナダ		28
フィンランド		22
タイ		20
スウェーデン		18
ポルトガル		13
スイス		8
アイルランド, 台湾		各6
イギリス, ドイツ, ノルウェー		各5
ブラジル, ニュージーランド		各4
オーストラリア, スペイン, デンマーク		各3
イタリア, エジプト, オーストリア		各2
エストニア, オランダ, コロンビア, サウジアラビア, スコットランド, スロヴェニア, ナイジェリア, ベルリン, マレーシア, リトアニア		各1

1. 第9回国際家族看護学会議に関する報告

会議の全日程は、表2のとおりである。基調講演は、Janice Bell博士（カナダ）とMadrean Schober氏（アメリカ合衆国）が行い、招聘講演は、Anna Stefansdottir（アイスランド）、Britt-Inger Saveman博士（スウェーデン）、Catherine Chesla博士（アメリカ合衆国）、Gyda Bjornsdottir氏（アイスランド）、Marcia Van Riper博士（アメリカ合衆国）、Maria Gudmundsdottir博士（アメリカ合衆国）、Maureen Leahey博士（カナダ）、法橋尚宏博士（日本）、Paivi Astedt-Kurki博士（フィンランド）、Suzanne Feetham博士（アメリカ合衆国）らによって行われた。

表2. 第9回国際家族看護学会議のプログラム

2009年6月2日（火曜日）	2009年6月4日（木曜日）
開会式	ポスターセッション（終日）
ポスターセッション（終日）	招聘講演（3セッション）
Cultural Presentation	ポスターアワード
基調講演	口演（13セッション）
招聘講演（1セッション）	シンポジウム（1セッション）
口演（7セッション）	The First Business Meeting of IFNA
シンポジウム（4セッション）	ガラディナー
ワークショップ（1セッション）	
IFNA Introduction and Membership Invitation	
レセプション（City Hallにて）	
2009年6月3日（水曜日）	2009年6月5日（金曜日）
ポスターセッション（終日）	招聘講演（1セッション）
招聘講演（1セッション）	閉会式
アワードセレモニー	Invitation to the 10 th IFNC in Japan 2011
口演（6セッション）	
シンポジウム（6セッション）	
ワークショップ（1セッション）	
施設見学	

1) プレカンファレンス (6月1日)

「Data Analysis for Family Researchers」
「Softening Illness Suffering of Families」
「Research of Families in the Genomic Era」の3つの有料ワークショップが開催され、大盛況であった。日本からの参加者もみられ、活発な意見交換を行っていた。Kathy Knafel博士, Janet Deatric博士, Bell博士, Feetham博士らという家族看護学の第一人者によるワークショップで、参加者は自分自身の研究に関する特徴や困難について、自国の文化的背景などを織り交ぜながら講師や参加者と意見交換する様子がみられた。

2) 第1日目 (6月2日)

まず、開会式が挙行政され、Bell博士らによる基調講演の後、口演、ポスターセッション、シンポジウム、招聘講演が行われた。ポスターセッションでは、トーキングポスターのセッションが設けられており、各国のポスター発表者が、研究に関するパンフレットを配布するなど、さまざまなスタイルで発表を行う様子が印象的であった。夕方には、レイキャヴィークの中心街にあるCity Hallにおいて、レセプションが開催された。

3) 第2日目 (6月3日)

午前中に、アワードセレモニーがあった。また、夕方から医療施設の見学が企画されていたので、セッションは他の日よりも早めに終了した。医療施設の見学は、Blue Lagoon Clinic-Psoriasis Treatment, Landspítali University Hospital, Eir Nursing Home, Primary Health Care Clinic, Rehabilitation Centre Reykjalundurの中から希望の1施設を選択でき、多くの学会参加者がこれに参加した(写真1)。

4) 第3日目 (6月4日)

ポスターセッション、ポスターアワード、口演、シンポジウム、招聘講演が行われた。招聘講演では、日本からは石垣和子理事長、法橋理事らが「Trends in East Asian Family Nursing」のテーマで、日本の家族と家族看護学に関する発表を行った(写真2)。夕方にはガラディナーが開催され、アイスランドの

余興が披露されるなどの趣向が凝らされていて、各国の参加者が楽しく、アットホームな雰囲気の中で交流を深めていた。

5) 第4日目 (6月5日)

最終日には、Chesla博士による招聘講演が行われた後、閉会式となった。さらに、森山美知子理事から、次回開催国である日本の紹介が行われた(写真3)。



写真1. 医療施設の見学の様子
(Landspítali University Hospitalの新生児室)



写真2. 招聘講演の日本人演者と座長



写真3. Invitation to the 10th IFNC in Japan 2011の様子

2. 国際家族看護学会（仮称）の発足に関する報告

会議の会期中に、International Family Nursing Association (IFNA, 国際家族看護学会) のIntroduction and Membership InvitationおよびThe First Formal Business Meetingの2回の準備会が急遽設定され、国際家族看護学会の発足についてさまざまな意見交換が行われた。なお、現在、国際家族看護学会への入会手続きは、IFNAのWebページ (<http://internationalfamilynursing.org/>) から行うことができる。

3. 参加ツアーに関する報告

国際交流委員会が主催した参加ツアー（近畿日本ツーリストが協力）には、新型インフルエンザの影響で6名が直前キャンセルになったが、28名の日本家族看護学会会員が参加した（写真4）。全国各地からの参加者が成田空港に集合し、アイスランドまでイギリス（ヒースロー）を経由しての長旅であったが、往路、復路、会議参加中も怪我や事故などはなく、参加者からは「世界の研究者との交流を行えた」「安心して旅ができた」などの感想をいただく

ことができた。この参加ツアーには、近畿日本ツーリストのサービスで、アイスランドでの添乗経験がある添乗員1名を随行していただき、学会参加の合間の観光やレストラン情報などの提供をしていただいた。なお、この参加ツアーに先立って、日本家族看護学会会員の学術的な成果を目指し、登録する演題の翻訳サービスを国際交流委員会で企画し、会員に便宜を図ることができた。なお、不都合や不手際などがあれば、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。



写真4. 国際交流委員会が主催した参加ツアーの参加者